

上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集

高松原遺跡Ⅳ

—長野県飯田高等学校部室建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1989.3

長野県飯田高等学校
長野県下伊那郡上郷町教育委員会

上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集

高松原遺跡Ⅳ

—長野県飯田高等学校部室建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書—

1989.3

長野県飯田高等学校
長野県下伊那郡上郷町教育委員会

序

このたびの本校運動部室改築にあたり、関係各位の御協力に深く感謝申し上げます。

改築に際して、地籍がこの歴史ある上郷町高松原にある関係で、埋蔵文化財の発掘調査が必要ということとなり、長野県教育委員会の予算をいただき、上郷町教育委員会に調査をお願いすることとなりました。多数の方々の御協力により、昭和63年9月16日より発掘調査を開始いたしました。4日間にわたって慎重に調査をしていただきましたが、古代の竪穴住居址などは発掘されませんでした。

お陰様で改築も終了いたしました。ここに特別の御尽力をいただいた上郷町教育委員会をはじめ関係各位に心から御礼を申し上げます。

平成元年3月

長野県飯田高等学校長

畑 谷 智 雄

例 言

1. 本書は、長野県飯田高等学校部室建設に伴う上郷町黒田「高松原遺跡」の第4次緊急発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は長野県飯田高等学校からの委託を受け上郷町教育委員会が実施した。
3. 発掘調査・整理作業等はTKMの記号によって実施した。
4. 本書は昭和63年度中にまとめることが要求されており、本来なら第1次から第3次調査をふまえて編集すべきであるが、今次調査の結果に限って収録した。
5. 本書を作成するにあたっての作業分担は以下のとおりである。
遺構実測—山下誠一、吉川金利 図面修正—吉川金利 遺構製図—市瀬禎子
遺構写真—山下誠一、吉川金利 遺物実測・製図—吉川金利
6. 本書の執筆と編集は山下誠一が行なった。
7. 本書に関連した遺物及び記録・図面類は、上郷町教育委員会が管理し、上郷町歴史民俗資料館で保管している。

本文目次

序	
例言	
I 経過	1
1. 調査に至るまで	1
2. 調査の経過	1
3. 調査組織	2
1) 調査団	2
2) 事務局	2
II 高松原遺跡の考古学的調査	3
① 第1次調査 ② 第2次調査 ③ 第3次調査	
III 調査結果	6
1. 遺構	6
① 土坑 ② そのほか	
2. 遺物	7
IV まとめ	8
後記	15

挿図目次

第1図 高松原遺跡位置図	4
第2図 高松原遺跡第4次調査位置図及び周辺図	5
第3図 高松原遺跡第4次調査全体図	6
第4図 土坑及び出土遺物	7

写真図版目次

図版1 遺跡遠景(南東より望む) 遺跡遠景(南西より望む)	9
図版2 遺跡近景(北より望む) 調査地近景(西より望む)	10
図版3 土坑 中央部溝状遺構 建物址ほか	11
図版4 調査区南側全景 調査区北側全景	12
図版5 調査区全景(南から) 調査区全景(北から)	13
図版6 重機による部室の取り壊しスナップ 調査スナップ	14

I 経 過

1. 調査に至るまで

長野県飯田高等学校は老朽化した運動部屋の改築を昭和63年度において計画した。当該地は高松原遺跡の中心部にあたるため、昭和63年7月8日に長野県教育委員会文化課指導主事が来町し、飯田高等学校担当職員・上郷町教育委員会担当職員による保護協議を実施した。その結果、小規模の開発ではあるが遺跡の中心地と考えられるので、事前に発掘調査を実施して記録保存をはかることとし、調査は飯田高等学校から委託を受けて上郷町教育委員会が直営で実施することとなった。

これを受けて、昭和63年9月16日に長野県飯田高等学校長と上郷町教育委員会教育長との間で、発掘調査にかかわる業務委託の契約が締結された。

2. 調査の経過

業務委託契約の締結を受けて、昭和63年9月16日に発掘機材を現地に搬入して調査を開始する。それ以前に運動部屋の取り壊しができていて、その際に重機で表土の掘り下げを済ませておいたので、当初は取り残しの表土を遺構検出面まで取り除く作業を実施する。深くはないが、これまで使われていた箇所だけに堅くて苦労する。

遺構面まで掘り下げが済んだ箇所から順次遺構検出作業に移るが、中央部に攪乱の浅い溝状の遺構と部屋以前に建てられていた自転車置き場に関係すると考えられる掘立柱の柱穴のほかには土坑状の穴が1基みられるだけで、ほかの遺構は検出されなかった。

遺構が検出できたところから掘り下げを開始し、中央の溝状遺構の掘り下げに多少手間取ったが短期間のうちに終了して、測量・写真を9月26日に済ませる。

9月27日に発掘機材を現場から搬出して、今次調査の現場における全ての作業を終了させることができた。

狭い調査範囲のうえ遺構がほとんどなかったことから、調査開始から4日間の短い期間で全ての作業を済ませることができた。

その後、他遺跡の発掘調査や整理作業が山積していたため、これらがほぼ終了した3月になって図面の修正などの整理作業を実施し、原稿を執筆して本報告書刊行となった。

3. 調査組織

1) 調査団

調査担当者 山下 誠一

調査員 吉川 金利

調査補助員 市瀬 禎子

作業員 東 定男 井坪 芳一 北林 覚男 小西 広司 菅沼 庄三
宮脇 直人 麦島 孝男 山岸 章 吉川 佐一

2) 事務局

上郷町教育委員会事務局

吉川 昭文 (教育長)

菅沼 富雄 (事務局長)

吉川 勝一 (事務局長補佐)

山下 誠一 (社会教育係)

今村 美和 (同上)

II 高松原遺跡の考古学的調査

高松原遺跡は上郷町黒田の小学高松原・高松・イカニ洞及び南原の一部を含む一帯に所在する。これまでに3次にわたる調査が実施されており、それぞれに調査報告書が刊行されている。遺跡の立地と環境はそれらに記述されているので、そちらを参照していただくこととして本報告書では省略し、それぞれの調査の概要を記述してみたい。

① 第1次調査

昭和51年3月から9月にかけて、飯田高等学校第二運動場の建設に先立ち高松原遺跡調査団により実施された(飯田高等学校1977)。本遺跡最初の調査であり、当地方の弥生時代後期の代表的遺跡と知られるようになった契機として、学史的にも重要な位置を占める。

調査は遺跡の南東部を対象として実施され、弥生時代の竪穴住居址35軒・掘立柱建物址8棟・囲溝址2基・土坑2基、縄文時代の土坑85基が検出され、それらに伴う遺物が得られている。なお、調査は弥生時代の遺構面で止められており、縄文時代の大半の遺構は現在でも、運動場の下に遺存していると考えられる。

当地方の初めて弥生時代の集落が広範囲に調査されたうえ、弥生時代の掘立柱建物址が検出されるなど、弥生時代を考えるうえで欠かすことのできない資料となった。ただ、考察編の発行が先行したために、全遺構・遺物を公にした資料編が刊行されておらず、詳細が不明な点が惜しまれる。

② 第2次調査

昭和58年7・8月に、飯田高等学校第二体育館建設に先立ち上郷町教育委員会により実施された(上郷町教育委員会1984)。

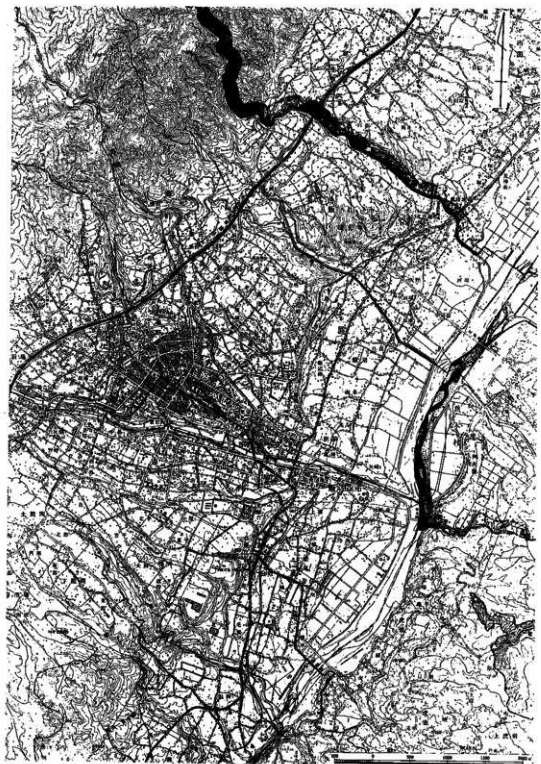
調査は第1次調査地西側に隣接する箇所を対象として実施され、縄文時代の竪穴住居址5軒・土坑14基、弥生時代の竪穴住居址8軒・掘立柱建物址1棟・土坑1基、時代不明の柱穴群2棟・土坑5基が検出され、それらに伴う遺物が得られている。第1次調査地西側に隣接する箇所であり、遺跡の広がりを確認するうえで絶好の調査となった。

③ 第3次調査

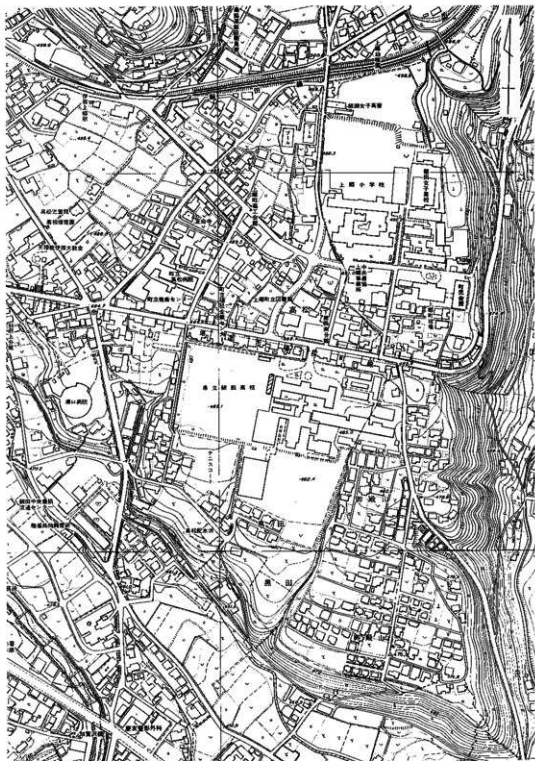
昭和59年9月に、飯田高等学校新校舎建設に先立ち上郷町教育委員会により実施された(上郷町教育委員会1985)。

調査は遺跡の中心部を対象として実施され、縄文時代の竪穴住居址1軒、弥生時代の竪穴住居址1軒・方形周溝墓1基が検出された。それまで校舎などで利用されてきた箇所だけに後世の攪乱が著しく、遺構などがやや不明確なのが惜しまれる。

これらを経て今次調査となった。



第1圖 高松原道跡位置圖



第2図 高松原遺跡第4次調査位置図及び周辺図

Ⅲ 調査結果

調査面積は165㎡と小範囲であり、学校敷地を造成する際に上面を削平され、かつ運動部屋などに利用されてきたこともあって、遺構は土坑状の穴が1基検出されただけである。そのほか、明らかに学校に係わると断定できる溝状の遺構と掘立柱建物址がみられただけである。しかし、削平や攪乱はルーム上面の遺構検出面やや下の位置で止まっていたので、このほかに何等かの遺構があったならば遺存したと考えられ、調査箇所では把握できる遺構は全て明らかにできたと考えている。

1. 遺 構

① 土坑（第4図）

調査区南東側で検出した。上面を攪乱の溝・北西側を避雷針を埋めるための穴に切られて、東側は用地外にかかり、全体の2/3程を調査した。短軸方向が80cmを測り、全体形は丸みを帯びた方形を呈すると考えられる。深さは検出面から26cmを測り、断面形は逆台形をなす。覆土は暗褐色土のほぼ一層である。底部は平坦であり、整った土坑状の穴となる。

遺物は出土しなかった。

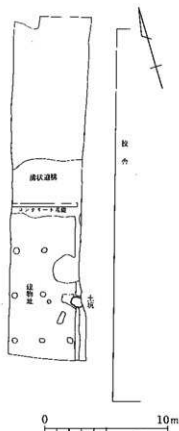
遺物が出土しなかったこともあって名称は付きなかったが、土層の状況からみて時期は断定できないが、古い時代の土坑と考えられる。

② そのほか（第4図）

そのほかの遺構は、いずれも学校に関連する近代以降のものである。

調査区中央部に、幅4.5mで緩やかな落ち込みをなし、覆土に砂利が入る溝状の遺構があり、この南側にはコンクリートの基礎がみられた。

南側には、2×3間の建物址がある。柱穴に石が入られており、柱を建てるときの基礎としたものと考えられる。柱穴は9個検出されたが、北東側の2本は



第3図 高松原遺跡第4次調査全体図

把握できなかったものと考えられ、総柱の建物址と考えられる。

この場所は、運動部屋が建てられる前に自転車置き場となっていたということであり、これに関連する可能性が高い。

そのほかには、意味不明の小溝や避雷針の穴などがある。

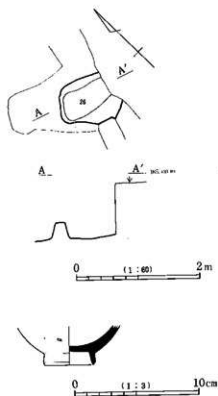
2. 遺物

出土遺物は12点出土しただけである。

全てが、中央部の溝状の遺構から出土しており、そのほかからは何も得られなかった。

図示できたものは近世の染付の茶碗（第4図）であり、外面に藍色の文様が施される。

そのほかは、小片のために図示できないが、ほとんど同じような色調を呈する染付の茶碗であり、形態は様々である。



第4図 土坑及び出土遺物

IV ま と め

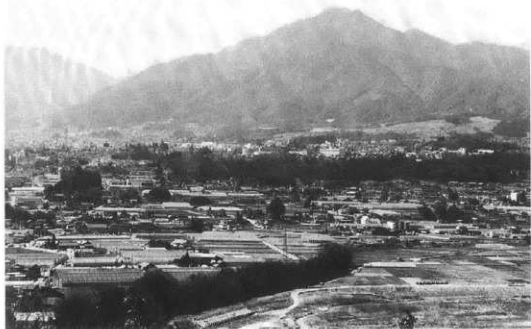
今次調査で検出された遺構・遺物は既に見てきたとおりである。狭い調査範囲などによって検出した遺構・遺物はほとんどなかったが、今次調査によって得られた問題点を指摘してまとめたい。

本遺跡は第1次から今回の第4次調査にわたって継続的に調査されてきたのはⅡで述べた通りである。広い面積が調査されたのは第1・2次の遺跡の南側に当る箇所であり、弥生時代の集落が明らかにできている。第3・4次調査で、遺跡の中心部を発掘したわけであるが、後世の擾乱を受けていたり、調査面積が狭かったりする制約があり、本来の様相が明らかになったわけではない。集落は南側を中心として広がっていたと考えられるが、範囲が明確になっているわけではない。そうした中で遺跡の中心部を発掘することは、範囲を明確にする資料が得られる可能性があった。残念ながら、そうした資料はなかったのであるが、少なくともこの箇所には竪穴住居址はなかったことは明らかであり、こうした積み重ねによって徐々に遺跡の姿が明らかになっていくのであろう。遺跡中心部には、校舎などの建物が建てられており、今後調査ができる見込みが少ないので、なおさら今回の調査が果たす役割は少なくないものといえる。

今後、高松通りの拡幅改修が計画され、これによる調査も予定されている。それによって遺跡の北側も調査されることとなる。住宅などが密集する箇所であり、これを逃せばこの箇所が調査できる機会は少ないといえる。調査を十分に実施し、北側の様相が明らかになったときに、下伊那那有数と考えられる本遺跡の状況が少し明らかになると考えられる。

【引用・参考文献】

- | | | |
|----------|------|-------|
| 飯田高等学校 | 1977 | 『高松Ⅱ』 |
| 上郷町教育委員会 | 1984 | 『高松Ⅱ』 |
| 上郷町教育委員会 | 1985 | 『高松Ⅲ』 |



遺跡遠景（南東より望む）



遺跡遠景（南西より望む）

図版 2



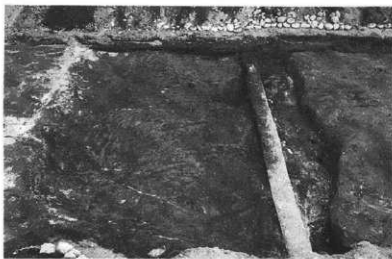
遺跡近景（北より望む）



調査地近景（西より望む）



土坑



中央部 溝状遺構

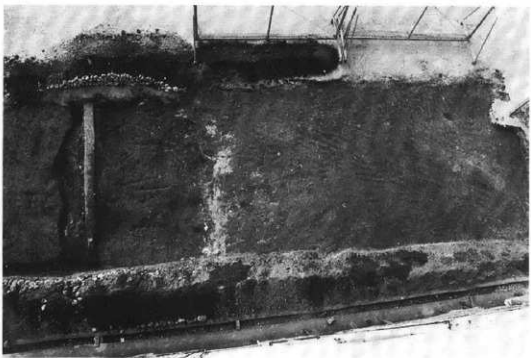


建物址ほか

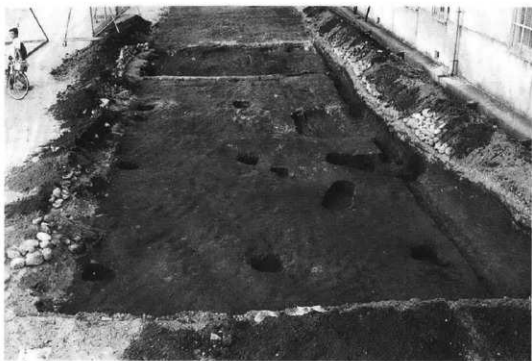
图版 4



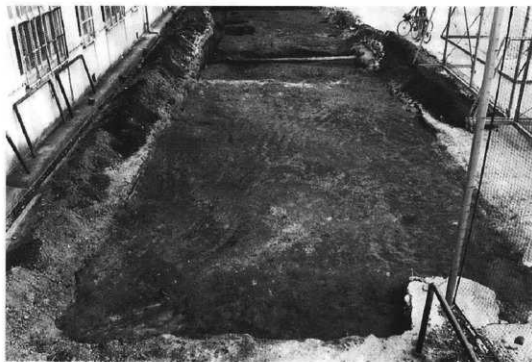
調査区南側全景



調査区北側全景



調査区全景（南から）



調査区全景（北から）



重機による部室取り壊しスナップ



調査スナップ

後 記

高松原遺跡の発掘調査を当教育委員会が担当したのは、昭和58年度の県立飯田高等学校第2体育館建設に伴うものと、昭和59年度同校校舎一部改築に伴うもの、それに今回と3回目になります。昭和58年度の結果は1984年3月発行の「高松原Ⅱ」、昭和59年度は1985年2月発行の「高松原Ⅲ」に著しています。

今回を含めていずれも飯田高等学校との業務委託契約に基づいて実施しました。

高松原遺跡は当町有数の広範囲に及ぶ遺跡ですが、幾度かの発掘調査によって次第にその様子が明らかになってきています。弥生時代後期にもっとも栄えた地域だったのではなかろうかと思われまます。

今回の調査は面積はそれ程広くありませんでしたが、遺跡の範囲を明確にするあるいは当該地点の状況を知る上では重要と考えられ、過去の調査同様飯田高等学校の深い御協力によって調査することができたことはよろこばしいことです。

今回の調査結果を含め数回の調査内容は、次第に深みを増して高松原遺跡の性格を考える上で、大切な資料提供をなしていると思います。

現地で発掘調査に従事していただいた作業員の皆さんを始め、飯田高等学校事務担当職員のお心配り等大変ありがたく御礼申し上げます。

平成元年3月20日

上郷町教育委員会

上郷町埋蔵文化財発掘調査報告書 第17集

高松原遺跡 IV

— 長野県立飯田高等学校部室建設
に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 —

平成元年3月31日 発行

編集・発行 / 長野県下伊那郡上郷町教育委員会
長野県下伊那郡上郷町飯田3092

印刷 / 株式会社 秀文社
長野県飯田市通り町1-2

